



POINT 1

知・技

基礎的な学習事項の定着のための工夫

基礎的な学習事項を、様々な地理的環境の概要と合わせて考えることで知識を確実に定着したり、資料から情報を読み取りまとめる技能を身に付けたりすることができる。

4 学年の社会科では、「47都道府県の名称と位置」について学習する。名称と位置のみを覚えることが主になってしまうと、ただの暗記となり、子どもたちが意欲的に学習に取り組むことができなくなってしまうと考える。また、北海道に住む子どもたちにとって、一番近い都道府県（以下「県」）は海を隔てた青森県のみである。そのほかの県はあまり身近ではないので、イメージしづらい子もいるのではないだろうか。

そこで、名称や位置だけでなく様々な地理的環境の概要を調べ、それらを組み合わせることで、子どもたちがより楽しく工夫して知識を習得できると考える。

1 県の地理的環境の概要を調べる

- (1) 調べたい県をいくつか決める。
- (2) 教科書や地図帳、書籍、インターネットなどを使って、様々な地理的環境の概要を調べる。
- (3) 調べた地理的環境の概要について、県同士の共通点や相違点に着目して整理する。

- ・ ○○地方である
- ・ ○○海に面している
- ・ ○○の生産がさかん
- ・ 新幹線が通っている
- ・ 世界遺産がある
- ・ 人口が多い、少ない
- ・ 面積が大きい、小さい
- ・ ○○県の北にある
- ・ 県庁所在地と県名が同じ
- ・ ○○川がある
- ・ となり合う都道府県の数が○つ

【都道府県の地理的環境の概要例】

2 Googleスライドを使ってクイズを作る

- (1) 作成する県を決め、出題するヒントを3つ選ぶ。
- (2) Googleスライドを使って、それぞれクイズを作成する。
- (3) 「都道府県クイズ大会」を行い、作成したクイズを出題し合う。

自分が調べ、整理した県の地理的環境の概要を使ってクイズを作成する。ヒントを選ぶときには、正解となる県が複数にならないように、また1つのヒントで答えが決まらないように指導する必要があるだろう。例えば山梨県をクイズにする場合、まず「ぶどうの生産が盛ん」というヒントにする。この時点で答えは山梨県、長野県、山形県、岡山県などに絞られる。その後のヒントで選択肢が2つ、1つになるようにしていく。また、モーション機能を使うことで、ヒントを1つずつ出すこともできる。

このように、ヒントの順番や出し方を工夫することで、ほかの県に対する理解も深められ、情報をまとめる技能も身に付くと考えられる。

都道府県クイズ

ヒント①：ぶどうの生産がさかん。

ヒント②：海に面していない。

ヒント③：県名と県庁所在地名がちがう。

正解は・・・山梨県



【Googleスライドで作成した都道府県クイズの例】

りを多角的に考えまとめる工夫

池田町立池田小学校 教諭 松村 健史



POINT 2

思・判・表

事象のつながりを多角的に考えまとめる工夫

学習する社会的事象はそれぞれが関係し合っている。多様な立場に立ったり、視点を変えたりすることで、社会的事象の見え方が変わり、理解が深まっていく。

学習指導要領では、社会科の教科目標(2)に「社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力」などを養うことが示されている。社会的事象をそれぞれ個々に見るのではなく、自分自身が多様な立場に立ったり、視点を変えたりすることで、見え方の角度が変わり多角的に考えることにつながるだろう。

そこで、多角的に考えるまとめの工夫について、「自然災害から人々を守る活動」についての学習の実践例を紹介したい。

Ⅰ 自助・共助・公助などについて調べる

この単元では、過去に発生した自然災害を題材として、まずどのような被害が起きたかを知り、自然災害に対してどのような準備や対策が執られてきたのかについて学習する。

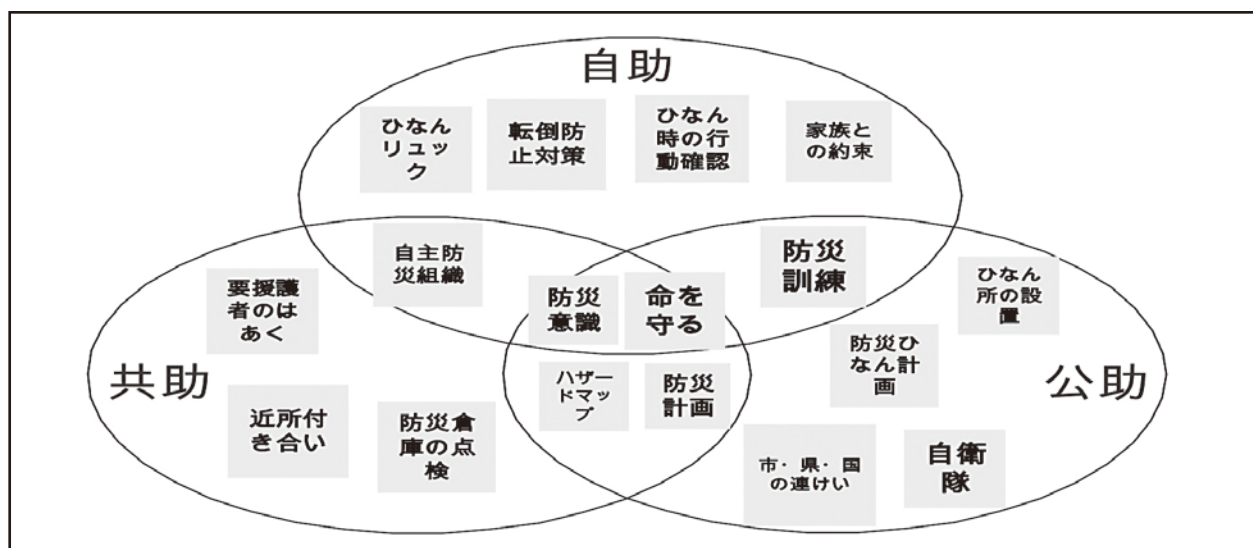
その後、災害への備えとして自分に何ができ

るか（自助）を考えたり、家や学校でインタビューをしたりする。それを地域（共助）、行政（公助）などへと少しずつ対象を広げ、本やインターネットも活用しながら調べていく。

2 Google Jamboardでベン図にまとめる

調べた備えについて、ベン図を使って多角的に考察していく。ベン図の視点の重なる部分に着目することで、市町村が住民と協力しながら防災計画を立てたり、自分自身が防災訓練に参加したりするなど、災害から人々を守る活動を多様な視点で捉えることができるだろう。

このように、関係機関の協力を多角的に考察していくことが、それぞれに共通する「防災意識」や「命を守る」という概念に気付くことにつながるのではないだろうか。



【ベン図の作成例】